

委員会活動報告：学術委員会

[報告者]

認定特定非営利活動法人日本若手精神科医の会 理事

国立精神・神経医療研究センター 山口 博行

当委員会は、2019年12月に研究活動推進委員会と臨床疫学ワークショップ委員会が合併し発足した。両委員会は共に学術活動推進を旨とするものであり、より広い見地から有機的な活動ができるよう、当時の研究活動推進委員長であった中神由香子先生のリーダーシップのもとに統合された。以降、2020年は佐竹祐人先生、2022年は大熊彩子先生、2023年は香田将英先生、2024年からは山口が委員長として継続的に活動を行っている。

■当委員会の立ち位置

当委員会は、下記の理念のもと活動を行っている。

理念:

- ・若手精神科医の学術活動を推進し、我が国の精神医学の発展に貢献する

目的:

- ・個人の研究活動能力の向上と、それを実現するためのシステム構築する
- ・組織・世代・専門を超えた学際的ネットワークを構築する

事業:

本委員会は、目的を達成するために次の事業を行う。

- ・年1回の臨床疫学ワークショップ
- ・学術活動に関する情報交換と交流の場の設定
- ・関連学術活動組織との、共同企画・実施
- ・その他、本委員会の目的を達成するために必要な事業

■実際の活動

1. 臨床疫学ワークショップ

当企画は

- 臨床医学について疫学的手法を用いる臨床疫学、および統計学の基礎知識
- 臨床疫学的手法が用いられたエビデンスの解釈方法
- 臨床研究の計画および遂行についての方法論

等について、主としてワークショップ形式で学ぶことを主な内容としている。

JYPO において CADP に次ぐ歴史を持つ定期的な企画であり、2023 年度で第 18 回の開催となった。ここ数年は講師数名を招いて指導を受ける形式で、参加資格は JYPO 会員に限定せず広く精神医学に興味を持つ方を対象としており、参加の敷居を高くしないことが重視されている。ここ数年の開催実績は下記の通りである。ワークショップを継続して実施していくことで、臨床研究について学ぶ場を提供すると共に臨床研究から得られるエビデンスの重要性を示し、学術活動に関する情報交換や交流の場を提供する。

○2017 年度 (第 14 回) @大阪大学 大会長: 山田健生

講義「臨床疫学とは」(坂庭嶺人先生: 大阪大学医学系研究科公衆衛生学教室)

講義「臨床研究の立ち上げから英語論文の発表までを最速最短で行うための極意」(原正彦先生: 大阪市立大学医学部附属病院 循環器内科)

ワークショップ「統計ソフト (EZR) でデータ解析をしてみよう」(阿部計大: 東京大学大学院 公衆衛生学教室 博士課程)

○2018 年度 (第 15 回) @京都大学 大会長: 安藝森央

講義「精神科臨床をよくする臨床研究の最先端とさらにその先」(古川壽亮先生: 京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 健康増進・行動学分野 教授)

ワークショップ「RCT の批判的吟味を元にした臨床研究のコツと実践」(田近亜蘭先生: 京都大学大学院医学研究科 精神医学講座 助教)

講義「医療リアルワールドデータやライフコースデータを用いた臨床研究による新たな健康社会にむけて」(川上浩司先生: 京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 薬剤疫学分野 教授)

○2020 年度 (第 16 回) @オンライン (Zoom) 大会長: 佐竹祐人

「デザインが研究の質を決定する」(福原俊一先生: 京都大学 特任教授)

ワークショップ①「CQ を RQ に構造化する」(小川雄右先生: 京都大学大学院 医学系研究科 社会健康医学系専攻 医療疫学分野 特定講師)

ワークショップ②「臨床と研究のための文献検索」(同上)

○2022 年度 (第 17 回) @オンライン (Zoom) 大会長: 大熊彩子

ワークショップ「CQ を RQ に構造化する」「臨床と研究のための文献検索」(小川雄右先生: 京都大学大学院 医学系研究科 医療疫学分野准教授)

講義「研究の実践」(宋龍平先生: 岡山県精神科医療センター)

○2024 年度（第 18 回）@岡山大学（ハイブリッド開催）大会長：香田将英
ワークショップ「生成 AI を研究支援に活用しよう」（松井健太郎先生：国立精神・神経医療
研究センター病院臨床検査部；吉田和生 先生：慶應義塾大学病院臨床研究推進センター教
育研修部門；香田将英 先生：岡山大学学術研究院医歯薬学域地域医療共育推進オフィス）

2. JYPO Academic Hub

2024 年度より、JYPO 会員に向けて学術活動に関する継続的な情報交換と交流の場を提供
するために、「JYPO Academic Hub」を立ち上げた。2024 年度は第 1 弾企画として、オン
ライン勉強・交流会「JYPO Academic Hub：精神科医のための研究・勉強 Tips」を開催し
た。香田将英先生（岡山大学学術研究院医歯薬学域地域医療共育推進オフィス）により、「忙
しい中で学術活動を続けるための生成 AI 活用法」についてご講演いただいた。また、学術
委員より実践している研究・勉強の Tips が共有された。今後は、オンライン勉強・交流会
を定期的で開催するほか、LINE オープンチャットに「JYPO Academic Hub」のトークルー
ムを設置し、学術に関する情報共有や相談の場として活用していく予定である。

JYPO は在籍期間が限られており、また「若手」精神科医の集まりであることから、在籍中
の学術的な成果を追い求めることを重要視しすぎると、会員の各施設での修練を妨げるこ
とにつながりかねない。むしろ JYPO での活動を通じて成長し、その後の各施設での研究
遂行時に JYPO の力が発揮されるような継続的な支援が得られることが望ましい。JYPO
卒業生には臨床のみならず学術面でもご活躍されている先生方が多くおられる。当委員会
は、そうした先生方と現役会員の結びつきを強め、JYPO 卒業後も医局を超えた有機的なネ
ットワークを構築することで、日本の精神医療に資することを目指している。

JYPO 理事 学術委員長
国立精神・神経医療研究センター 山口 博行
h.yamaguchi@ncnp.go.jp

■活動メンバー 五十音順 (◎が委員長、○が副委員長)

安藝森央 (京都大学医学研究科)

飯島由佳 (ジョンズホプキンス大学公衆衛生大学院)

○川竹絢子 (マウントサイナイ医科大学)

倉持泉 (埼玉医科大学総合医療センター)

○香田将英 (岡山大学学術研究院医歯薬学域地域医療共育推進オフィス)

出利葉健太 (砂川市立病院)

◎山口博行 (国立精神・神経医療研究センター)

○山口泰成 (やまぐちメンタルクリニック奈良真美ヶ丘)